

IMF、世界経済見通しを下方修正

ポイント① 21年世界経済見通しは下方修正

10月12日、IMF（国際通貨基金）は2021、22年の世界経済見通しを改訂しました。これによれば、2021年の世界の実質GDP（国内総生産）成長率は5.9%と、7月時点の見通しから0.1ポイント下方修正されました。背景には、供給網の混乱や物価上昇圧力により、先進国ではコロナショックからの回復が遅れており、国別では米国が6.0%、日本が2.4%と、7月時点から、それぞれ1.0ポイント、0.4ポイント下方修正されています。

ポイント② 来年以降の経済回復は二極化

対して2022年の世界の経済成長率は4.9%と、7月時点の見通しと同水準となりましたが、各先進国の成長率は同見通しから概ね上方修正されました。一方で、新興・発展途上国の成長率は5.1%と、7月見通しより下方修正されており、IMFはワクチン接種の進捗状況の格差が、経済回復を二分させる見通しを示しています。現に低所得国では、今もなお人口の約96%がワクチンを接種できていない状況で、今後も新型コロナウイルスの感染拡大により、経済成長率の低下が続く懸念が高まります。

ポイント③ インフレ動向には注意が必要

また新興・発展途上国の2021年のインフレ率は5.5%、2022年は4.9%と、高いインフレ率が続く見通しです。そのため、早期に金融引き締め策が行なわれる可能性もあるので、当面は同地域の政策動向に目を配る必要がありそうです。他方で、先進国のインフレ率についても、今年終盤にピークを迎えるとの見通しが示されましたが、足元の原油高や供給網の混乱を踏まえると、インフレ率の高止まりの恐れも否定できないので、引き続き注意が必要です。

国・地域別実質GDP成長率見通し

| | 2020 | 2021 | 2022 |
|----------|------|------------|------------|
| | | | (前年比、%) |
| 世界 | -3.1 | 5.9 (-0.1) | 4.9 (0.0) |
| 先進国 | -4.5 | 5.2 (-0.4) | 4.5 (0.1) |
| 米国 | -3.4 | 6.0 (-1.0) | 5.2 (0.3) |
| ユーロ圏 | -6.3 | 5.0 (0.4) | 4.3 (0.0) |
| 日本 | -4.6 | 2.4 (-0.4) | 3.2 (0.2) |
| 新興・発展途上国 | -2.1 | 6.4 (0.1) | 5.1 (-0.1) |
| 中国 | 2.3 | 8.0 (-0.1) | 5.6 (-0.1) |
| インド | -7.3 | 9.5 (0.0) | 8.5 (0.0) |

(注) IMFによる予測

(注) ()内は2021年7月時点見通しからの修正幅。

(出所) IMF「World Economic Outlook, October 2021」
(<https://www.imf.org/>) より野村アセットマネジメント作成

消費者物価インフレ率と短期金利の見通し

| | 2020 | 2021 | 2022 |
|------------|------|-------------|------------|
| | | | (%) |
| 消費者物価(前年比) | | | |
| 先進国 | 0.7 | 2.8 (0.4) | 2.3 (0.2) |
| 新興・発展途上国 | 5.1 | 5.5 (0.1) | 4.9 (0.2) |
| 短期金利 | | | |
| 米ドル6か月金利 | 0.7 | 0.2 (-0.1) | 0.4 (0.0) |
| ユーロ3か月金利 | -0.4 | -0.5 (0.0) | -0.5 (0.0) |
| 円6か月金利 | 0.0 | -0.1 (-0.1) | 0.0 (0.0) |

(注、出所) 上表と同じ

重要 イベント

10月15日 米小売売上高 (9月)

10月18日 中国鉱工業生産、中国小売売上高、中国固定資産投資 (9月)